

わたしの聖戦

◎◎女性が働くということ◎◎ 26

医学博士・医学ジャーナリスト 植田美津江

みんな同じ顔

日本の女性はきれいに
なったとつくづく思う。

もともとの顔かたちは
もちろん、ヘアスタイル
や化粧法も随分洗練され
てきた。裕福な国に生ま
れ育った幸運を謳（おう）
歌するかのようには、身に
つけるものなどすばらし
く贅（ぜい）沢でおしゃ
れである。

数年前にニューヨーク
のブティックに立ち寄っ
た際、私が日本人だと知
ると居合わせた店員たち
が大喜び、「日本人は皆
きれいで好きよ」と言
っていたのを思い出す。
大金を落としていくとい
う意味の「大好き」だっ
たかもしれないが、悪い

気はしなかった。

また、外国に長く暮ら
す日本人が久しぶりに帰
国して驚くのは、女性
がますますきれいになった
ことだという。とくに近
頃は、生活習慣の変化が
もたらす外見の相違も際
立ってきていて、手足が
長くあごの小さい、いわ
ゆる西洋型日本人が増え
ているように思う。

しかし、何やらみんな
同じような顔に見えてし
かたないのは私だけだろ
うか。

特に若い女性にそれが
著しい。街を歩いててもフ
ァッション雑誌を開いて
みても、見事に同じ顔が
ずらっと並ぶ。最近では、

色白肌が目元ばっちりの
メイクが主流、ヘアはオ
レンジ系でくるくるとし
た巻髪が流行っているよ
うだ。冬にはブーツにマ
フラーと、これもその年
ごとの流行があつて、申
し合わせたように似たよ
うなものを身にまとい
ている。

手足が長くあごの小さい



一時期、女子高校生の
あいだにチェックのマフ
ラーとルーズソックスが
蔓（まん）延した。もと
もと制服がある上に同じ
アクセサリーをつけてい
るのだから、たまに女子
高校生のグループに遭遇
すると、大量生産された
ミニチュアのクロン人

間かと思間違うほどであ
った。

「皆と同じ」であるこ
とを尊ぶのは、日本人の
性質としてしばしば話題
になる。最も顕著なのは
教育の場であり、そこで
は個性の強い子は「はみ
だし者」としてみなされ
評価の対象外になってし
まう。それではい
けないと指摘され
つつもあらゆると
ころで「皆と同じ」
であることが求め
られる。そんな風
潮に嫌気が差した
人間は、いつまで
も変わらない日本
をさっさと見限つ
てしまうので、国
内にはいるのは相も
変わらない「皆と同じ」
が好きな人間ばかりとい
う状況だ。

そんな日本でも、あら
ゆるところで「変化」が
起きている。それまで学
校を卒業したら就職する
のが当たり前であったの
が、何もしない若者が増
え社会問題になっている。

また、結婚しないで出産
するシングルマザーは珍
しくなくなつたし、「パ
ツイチ」と呼ばれる離婚
経験者はそれを恥じるこ
となく生きていけるよう
になった。この変化を前
向きにとらえるかどうか
は考え次第といえるが、
どれもマイノリティーで
あれば個性的な生き方と
なるのに、数多くなれば
これも「皆と同じ」とな
ってしまうところは共通
している。

大嫌いな言葉のひとつ
に「自分探し」がある。
この種の言葉を安易に口
にする神経は私には理解
できないが、そこには「皆
と同じ」自分では嫌だと
思う気持ちが見え隠れす
る。

「皆と同じ」と安心す
るのは、精神が幼稚であ
るからだ。結局は「自
分探し」も同じこと。同
じ顔で同じ話し方をする
人々を見つめながら、真
の大人が生きにくい国で
あるのをいやというほど
実感している。